

私たちはものを見たときに、目だけで判断せず、様々な「五感」で判断しています。感性で受け取る人もいれば、形で受け取ったり、物で受け取ったりします。私たちには色々な「フィルター」がかかっているからです。私たちの目は、乱視になったり近視になったりしてしまいます。私たちの心はそんなふうになっていないでしょうか。（マタイ11：20～）あなたは物事を純粋に捉えるほうですか。それとも曲がってとらえているのでしょうか。後者であると感じるなら直す必要があります。「天地の主であられる父よ。あなたをほめたたえます。これらのことを、賢い者や知恵のある者には隠して、幼子たちに現わしてくださいました。」（マタイ11：25）神様はどうして幼子を尊んだのでしょうか。彼らは正しく言わなくても恥ずかしいとも怒られるとも思っていないからです。素直に感じたとおりなのです。しかし大人は「見たものが本当にそうなのか」とまっすぐ見れずに湾曲してしまおうのです。こういう状態が続くと素直さがなくなってしまいます。私たちはいつから素直さがなくなってしまったのでしょうか。「信じてやっていたのに否定された」など、あなたが素直に聞ける立場の人（両親、祖父母、好きな人など）からの影響は大きいのです。それによって物事を判断してしまうのでそのフィルターを通して聞くために、本来聖書がこうだといっていることを聞き取れないし、物事を湾曲して捉えてしまうのです。だからイエス様は「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。」（28）と言ったのです。パリサイ人たちは、イエス・キリストを待ち続けている間に、自分たちの概念化されたイエス様を作ってしまう、本物が現れた時には本物がわからなくなってしまっていました。だから殺してしまったのです。湾曲していない心さえあれば気付けたはずです。今あなたの心はこの当時のパリサイ人みたいになっていないでしょうか。幼子の五感が大切です。彼らは目だけで見ず、外側だけをみていません。色々なところで感じているのです。光はガラスに斜めに入ると屈折してしましますが、まっすぐに入ると屈折しません。これが子どもの目です。子どもは真正面から物事を見ようとするので屈折しません。しかし私たちは斜めから見ようとするので屈折してしまおうのです。斜めから入ると屈折し、自分の心のくだらない傷にぶつかるのとさらに曲がってしまうのです。屈折しないために**①曲がって見ない**。物事を曲がってみてはいけません。物事とは人の言葉、御言葉のことです。人を見るときに、「あの人はこういう人だ」という湾曲した見方で見てしまうので、その人が発する言葉に苦々しさを感じてしまうのです。これはとても怖いことです。もしあなたの父親像が屈折していたら、父なる神様も「あなたの父親」というフィルターを通して見てしまうのです。対人間関係でもそうです。あなたが物事を湾曲して捉える習慣があるのであればそれをやめなくてははいけません。あなたの価値観で物事を判断してしまうので、正しい情報があなたの心に到達しません。そうなればそこで脱線し、傷ついてしまうのです。あなたの欺く心、隠す心、偽り・・・これらはすべて屈折して捉えているからです。幼子は自分が悪かったと思えば隠すことなく「すみません」と言えます。私たちも幼子のようにならなくてははいけません。（ルカ18：15～）「子どものように神の国を受け入れる者でなければ、決してそこに、はいることはできません。」（17）「子どものように受け入れる」とは「まっすぐに受け入れる」ということです。私たちの価値観で神の国を作り上げず、聞いたままに受けとめられるということ。あなたが人を見る目も考えている価値観もあなた自身が研究してつくったものではありません。あなたが言われたことや経験したことを通して固定概念化しているのです。ルールができあがっているのです。あなたのルールで人と接すれば、相手がそういうつもりはなくても「あなたのルール」というフィルターで人を裁いてしまいます。そしてあなたも裁いたとおりに裁かれてしまうのです。今言われることを「痛い」ととってはいけません。素直に聞いて「そうか」という理解がなされれば楽なのです。「とは言え・・・」「でもあの人はそういう人」というのが出てくるはず。しかしそれもあなたがその人と何度か接する中でできた概念なだけで、その人の本質はわからないのです。なぜならあなた自身があなた自身をわかっていないからです。私たちが自分を知るの他人の評価です。神様を見るときも御言葉を聞くときも過去の経験から見ず、「今日初めて」聴くこととして聴いてください。今日から変ればよいのです。変えられないのは、私たちは過去のやってきたくだらないことを変えられないからです。しかし記憶の整理さえしておけばそういうことで思い悩む必要はありません。**②見えないものを見る**。光はガラスに入るときに屈折するだけで、物体の中を通過している時には曲がってはいません。外側で屈折しているのです。あなたの見方が「外見」だから屈折するのです。ガラスの中身が変わらないように、人の心は変わらないものなのです。神様が創造した正しい心があるのですがその心を見る気がないのです。心の中は屈折していないのですからその中を見なくてはいけません。「なんであの人が今こういうことを言っているのだろうか」判断してください。真意をわからなくてははいけません。言っている人がどうであれ、今その人の心がどうなのかをあなたの心の目でみてください。五感を駆使してみてください。あなたはどのような心のオーラを出しているのでしょうか。あなたは周りの人をどうやって判断していますか。目の情報、耳の情報、一つだけで判断してはいけません。神様の言葉がわかるなら神様から聞いてください。「しかし主はサムエルに仰せられた。「彼の容貌や、背の高さを見てはならない。わたしは彼を退けている。人が見るようには見ないからだ。人はうわべを見るが、主は心を見る。」（1サム16：7）このとき、ダビデは人の目には小さく弱々しくとも王になるような立場ではなく、実際これから30年先でした。しかし神の目はその時ではないのです。立派になったから王にするのではなく、彼の心を見ています。実際その後のダビデは人の力に頼ったり、神の方法ではないやり方でしたりしてませんでした。そういう彼の心を見ていたのです。あなたはあまりにも人の外見だけを見ていませんか。その言葉を言葉だけで聞いていませんか。言葉の奥深いところを探ってください。**③フィルターをかけない**。（箴言20：5～11）「異なる二種類のおもり、異なる二種類の枴、そのどちらも主に忌みきらわれる。」2種類のおもり、枴、これがフィルターです。あなたの目に2つの価値観があると曲がってとらえます。2重の心（疑う心、繕う心）です。そうすると、あなたの目で見ようとするものに繕いがかかるためにフィルターがかかるのです。人と接するときに自分の心を隠すとそうなります。人を見るときに「この人はこのはかり」「外ではこれ」「中ではこれ」と変えてはいけません。あなたのめがねは一つ、御言葉のめがね、神の価値観で見ないとはいけません。あなたのしていることが子供のよう純粋かどうかはかかってください。あなたは人によって違いますか。人の心や自分の心を見るとき、まっすぐに判断してください。物事を見るときにフィルターをかけず、見えないものを見てください。そういう生活をしていなければ、神様がたくさんの情報をもとに語っていてもわかりません。心を整理するためには、この入ってくる情報を整理したほうが早いのです。「豊かな者となるために火で精練された金をわたしから買いなさい。また、あなたの裸の恥を現わさないために着る白い衣を買いなさい。また、目が見えるようになるため、目に塗る目薬を買いなさい。」（黙3：18）3つのポイントを大切に今日から実践していきましょう。（要約者：岩崎祥誉）